

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700014		
法人名	有限会社ライフケア		
事業所名	グループホーム さんほうす		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字糸岐786-1		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年3月8日	外部評価確定日	令和5年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居様が家庭的で自宅に近い環境、安心して日常を送って頂けるように心掛けています。一人ひとりの要望を受け入れ、希望に添えるよう努めております。コミュニケーションを大切に、家事活動など職員と一緒に、生活自立支援を行っています。又、協力医療機関と連携を図り健康管理を行い、安心して生活を送って頂けるよう支援いたします。地域のボランティアや高校体験学習などを受け入れ、外食レクや外出レクリエーションなどで地域との交流を図り、利用者様も自主的に取り組んでもらえるような関わりを大切にしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は有明海に程近く、海の幸や柑橘類も豊富な町に位置している。長閑な住宅地の中に建ち、庭先に出ると近所の保育園からは元気な園児の声も聞こえてくる。全員が地元からの入居で、慣れ親しんだ言葉や自然環境の中で落ち着いた日々を過ごしている。暮らしの中で重要な位置にある食事が、毎食ここで手作りされていることも特長であり、利用者が自分の役割として参加することは張り合いや喜びにも繋がっている。また職場環境として職員同士が注意し合えたり、忙しさのあまり声掛けが不十分だったと反省があれば素直に利用者へ謝ることもある。アイデアやひらめきを机上で終わらせることなく「とりあえずやってみよう」と行動に移す点も記しておきたい。時には職員のペットが利用者を和ませ、出張販売では好みの洋服を選んでもらうなど「ハッピーすまいる」な場面も窺える。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念・運営方針は玄関ロビーや事務所、ホールへ掲示している。又、職員会議後には一同で理念を唱和し、理念の確認と実践に努めている。	開設時から引き継がれている理念は「ハッピーすまいる」のみである。至ってシンプルだが、その中に込めた想いは奥が深い。理念の下には運営方針4項目があり、目に付く場所への掲示で意識付けも図っている。職員の自然な笑顔と笑い声は利用者に伝播し和やかな雰囲気である。理念が日常に浸透し活かされていることは利用者の穏やかな表情からも窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも加入し区費も収め、回覧板等でも地域の情報を収集している。秋には区長さんの協力で、地域の伝統舞踊を当ホームにて披露して下さったり、近所の保育園児にも歌や踊りの披露をして頂くなど様々な場面で交流を行っているが令和2年より、新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、実施できていない。	自己評価にも記している通り、コロナ禍前には地域の人々との交流もあったが、現在は自粛を余儀なくされている。未だコロナ禍であり樂觀はできないが、地域に暮らす住民として基盤は維持されたままである。回覧板等を介して細かい情報も届いており、見守りや連絡を頼める繋がりもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常ではあれば、2ヶ月に一度開催している運営推進会議にて、当事業所で実践している認知症の方への支援方法を伝えている。又、地域ケア会議へ出席し認知症の方との関わり方について事例発表する等、情報を発信しているが令和2年より、新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、文書のみでの報告になっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常であれば区長さんや民生委員、行政の職員・入居者及び入居者ご家族等の参加で開催している。開催時には、事業所での活動状況や取り組み等を報告している。又、委員の方から頂いた情報を外出レクリエーション等に活かしているが令和2年より、新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、思うような開催はできていないが、議事録は発送している。	今年度、対面での開催は出来ていない。資料送付により事業所への理解と支援の継続をお願いしている。開催時には利用者と同じ昼食を摂ってもらったり、顔見知りとなったメンバー同士が相談し合う場面もあった。参加を引き受けてくれる家族もあり、事業所からの現状報告だけではなく双方向な意見交換の場となっていた。この会議を通して地域との繋がりが深まりが少しずつ増えていると感じただけに、一日も早い普通の暮らしを待ち望んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや社会福祉協議会から伝達事項を受け、他にも福祉に関する意見交換を行っている。	問い合わせ等があればまず電話を掛け、内容によっては直接出向くこともある。行政側には相談事も言いやすく協働関係は築けている。またコロナ禍でなければ介護相談員の訪問もあり、数カ月一度ではあるが20分程の滞在で利用者の話にも耳を傾けてくれたこともある。事業所と利用者との橋渡し役として今後も期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての指針を玄関ロビーに掲示し、拘束をしないケアに取り組んでいる。又、職員は身体拘束に関する研修を開き、知識と技術の習得に取り組んでいる。安全対策として、施錠は夜間帯のみ実施している。	入居契約時に指針の説明を行っており、職員は身体拘束の内容やその弊害も理解している。現在、センサーマットやベッド柵を使用中ではあるが、安全面や危険防止、また家族の承諾を理由に正当化するものではない。止めるための工夫や方法はその廃止委員会に於いて毎月話し合われている。玄関にチャイムやセンサーの設置はあるが施錠はない。利用者の行動を抑えることはなく、職員の見守りによって自由な暮らしが支援されている。仮に不適切なケアが見られた場合は時を置かず本人に確かめ、考えさせ、内容によっては全体の事として注意喚起するとなっている。また職場として職員同士が気軽に注意し合える環境であることも特長である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自尊心を傷付けるような声かけも虐待に繋がるとの認識を持ち、入所者が安心して日常を過ごして頂けるように努めている。又、高齢者虐待に関する研修を開き、知識と技術の習得に取り組んでいる。外部研修については新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、思うような参加はできていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ、日常生活自立支援事業等を利用する取り組みの体制はできている。地域の社会福祉協議会との連携を図り、入所者のニーズに迅速に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書にて説明を行っている。サービスを実際開始後発生した問題や不安については、随時説明の機会を設けている事を伝え納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に新たな要望がないか意見を聞くようにしている。面会が少ないご家族には、お便りや電話連絡にて意見や要望を聞いている。他にも玄関に意見箱を設置している。	事業所では毎月の利用料支払いを敢えて持参でお願いしている。コロナ禍でも家族が訪れたら僅か数分であっても顔が見られるように配慮し、現在は玄関先ではあるが少し距離を取りながら15分程度の面会を支援している。事業所としても家族との会話は大切にしており、世間話等も交えながら何でも話してもらえよう努めている。請求書やホーム便り発送時には受診結果や担当職員による近況を添え、遠方に住むキーパーソンには状況をみながら電話も掛けている。今回の当外部評価アンケートには、家族から気になる点として意見が寄せられていた。事業所ではホーム便りを通して回答を伝える予定である。出された意見にはきちんと向き合う姿勢が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、代表者や管理者は職員と話し合う機会を設けている。職員は日々の関わりの中で気付いた事は何でも管理者に伝えるよう努めている。	毎月の職員会議は午前9時から概ね2時間を要し、休みの職員や法人代表者の出席もある。カンファレンスが主となるが勉強会も組み込まれ充実した内容である。代表者が同席しているため現場の声もダイレクトに届いている。事前の内容周知で自分の考えをまとめておいたり、取り上げてほしい事があれば申し送りノート等に記すこともある。意見は活発に出され、可否をあげつらうより「とりあえずやってみよう」という気質がここにはある。また管理者としては働きやすい職場となるよう配慮も必要だが、職員に対し、意見は正面からきちんと言おうと伝えている。定時での帰宅を促し、休暇希望にも柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休休暇の取得等にも必要に応じ柔軟に対応し、職員が働きやすい環境作りに努めている。また、キャリアアップ制度を設け、給与水準の検討などに活かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修に積極的に参加出来るよう努めている。又、新人職員については個別の教育計画を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	嬉野・塩田・鹿島・太良・白石地区のグループホームで毎月交流会を開催している。その中でケアについての様々な学習会を実施し、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者を中心に入所前面接を開き、本人の不安な事や要望を事前に把握するよう努めている。新しい環境でもご自分の気持ちを表現しやすいように、相性の合うスタッフを選任して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な事・要望や思いを真摯に受け止め、適切に相談に応じるよう関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談時より計画作成担当者が中心となり、「その時何を必要としているのか」を見極め支援に繋げている。管理者と相談し、必要に応じてインフォーマルなサービスも検討していく体制を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者がやりたい事・出来そうな事を見極め実践し、その方の自信へ繋がる支援を行っている。職員を「共に暮らすパートナー」としてお互い協力し、共に生活を送って頂けるよう支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所者の様子をお便りにして毎月郵送したり、要望に応じて疎遠のご家族に入所者ご本人から電話連絡を行ったりと支援を実施している。ご家族の協力のもと、昔のアルバム等を準備して頂き回想法に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通常であれば親しい友人や近隣住民の面会等を積極的に取り入れている。又、ご家族の協力のもと希望に応じて自宅への外泊へも精力的に取り組んでいるが令和2年より、新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、思うような取り組みはできていない。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、また担当のケアマネジャーや利用していたサービス事業所、場合によっては病院のソーシャルワーカーからも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援が組まれていたが、コロナ禍では自粛することも多くなった。クラスターを経験し、事業所として緩和を進めるにはまだ状況を見ている段階である。しかし電話の取次ぎはいつでも可能であり、玄関先での面会も時間を少し延ばしている。出来る事を徐々に広げながら、利用者が大切にしてきた関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士お互い自然と寄り合い、TV視聴や会話を楽しまれている。相互関係を十分に把握し、必要に応じてテーブルの席移動を行い、より良い対人関係を作れるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の担当ケアマネジャーや医療ソーシャルワーカー等と介護計画書等を通じて、情報提供を行っている。又、必要に応じて電話連絡等で連携とれる体制を構築している。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画書作成時には、必ず希望や意向を把握するようにしている。又、当ホームでは毎朝朝の集いを開き、入居者一人ひとりに希望を聞くようにしている。聞く事により、その方の考えや思いを尊重出来るよう日々支援している。	日頃のケアの中で想いに気付けるよう努めている。一対一で話し相手をしている時や、入浴中の寛いでいる時間などには想いが聞けることも多い。お気に入りの職員を待つ方もいる。スキンシップを交えたり、口元が見えないマスク生活になってからは耳元で話してみたり、また発語の少ない利用者とは答えに選択肢を用意するなど工夫も窺える。数カ月一度の利用者アンケートでは何を食べたいか、何をしたいか等を尋ねてもいる。聞き取った事は口頭や申し送りノート等に記し共有を図り、そこからケアプランに反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当者が主になり、フェースシートやアセスメント表を作成し把握に努めている。必要に応じて、キーパーソンやご本人へ尋ねてこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中でご本人のペースに合わせたサービスを提供している。「出来る事・出来ない事」を職員と入所者で共に援助しあえる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者やご家族からの要望を聞き、具体的な介護計画を作成している。主治医や訪問看護からのアドバイスも取り入れ、より現状に即した介護計画書を作成するよう取り組んでいる。	ケアプランは入居して間もない時期は3か月毎、その後は6か月毎の設定期間があり、その間に変化があれば臨機応変な対応も行っている。本人の希望は日々の把握に加え、直接尋ねてもある。家族の要望等は利用料支払いや面会で訪れた時、またなかなか来られない家族とは電話での会話から想いを汲み取っている。家族からは現状維持を願う声も聞かれるが、歳を重ねる毎に身体機能の低下は否めない中で、緩やかな経過を辿っているのは毎日のケアの積み重ねに他ならない。訪問看護ステーションやかかりつけ医の意見も参考にしながら、本人がよりよく暮らすためのプランを練っている。毎月のモニタリングは全職員で検討をし、状況によって家族への報告もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ってサービス提供を行い、ご本人が発言した内容を細かく記録しながらケアの実践に活かしている。変化や気づきを発見した時は、いつでもカンファレンスを開けるよう体制を整えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通常であれば買い物支援・理美容室同行と要望に応じて支援を行っている。又、ご家族の協力のもと希望に応じて自宅への外泊を実施する等、その時のニーズに柔軟に対応出来るよう努めている。令和2年より新型コロナウイルス感染症への感染予防の為、思うようにニーズへ応えられていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常であれば介護相談員や区長、民生委員の方の協力のもと様々な場面での支援を頂いている。今年度も昨年度同様、新型コロナウイルス感染症の感染予防の為、中止や延期となる事も有り、参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の意向を大切にし、定期的にかかりつけ医を受診している。又、遠距離の医療機関受診時には、ご家族にも送迎を協力して頂いている。	昔からの馴染みの医師を持つ方は、継続できることで病歴等も知ってもらえている安心感がある。入居後に説明を受け、協力医をかかりつけにと変更した方もあり、それぞれが希望するかかりつけ医である。週一回は訪問看護ステーションから看護師も来ている。受診には職員が付き添っているが、家族にお願いする場合は日頃の様子を記す書類や質問書を携行してもらい、スムーズな診療に繋げている。定期受診の報告は、変化がなければ後日の機会に行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態を朝と夕、申し送り時に報告している。又、毎週訪問看護師の訪問があり、入居者の様子を報告し必要なアドバイスを受けている。他にも急な状態変化に対応出来るよう、日頃から関係構築に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関のソーシャルワーカーと普段より交流を図っている為、入居者の入退院時には迅速に対応出来ている。主治医との直接面談時等は、ご家族と管理者・又は計画作成担当者が同席して対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りケアに関する指針」をもとに、契約時に本人やご家族へ説明を行い同意を得ている。入居者の状態に合わせ、主治医やご家族と常にカンファレンスが開ける体制を整えている。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験(エンゼルケアまで)があり、今後も希望があればそれに応える用意もある。一旦決めていても揺れ動く家族の気持ちを踏まえ、話し合いは何度でも重ねる事とし、かかりつけ医からの説明も受けられる。看取りに関して未経験の職員も若干名おり、そのフォローや事業所の力量としても勉強会は必ず計画されている。家族向けの心構えのための冊子もあり、本人や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師の指導のもと、日頃から急変時の対応について実践している。又、事業所内でも勉強会を開き、技術と知識の習得に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火や通報訓練・避難訓練を実施している。災害に関する学習会や災害時に備えた訓練も実施している。以前は消防署から指導も受けていたが、コロナウイルス感染症のため消火器を借りるなどで行っている。	年2回、昼間帯の訓練で、夜間想定では夜勤職員のみで初期対応を試みている。利用者も一緒に避難を体験し、職員は消火器や通報装置の使い方も承知している。緊急時に居室ドアを塞ぐような家具類の配置はなく、居室から退避済みの合図も検討している。非常食や水、寒さを凌ぐ物の備えもある。地元消防団に協力をお願いしているため週末(土日)の訓練となっており、併せて近隣住民への周知も行っているが参加は少ない。火災と自然災害では避難場所に違いがあるが、地震や津波・高潮等では高台を設定しているためである。訓練後の反省点や課題はその場で周知され、今後は実際の夜間に職員のみで行う避難経路の確認等も検討している。	前回の当外部評価後、自然災害時の避難・移動等の訓練を目標に挙げ、車に移乗するところまでを実施している。避難場所は家族にも周知しており、現状で出来る範囲の対策は講じている。課題は夜間帯(職員一名)に起きる災害である。自然災害であれば近隣住民全てが避難を始める中で、どれだけの援助が得られるか。事業所独自でどこまで対策が可能か。これからも常に意識をしながら検討を続けて頂きたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所契約時に個人情報の利用目的をご家族に説明し、同意を得ている。写真掲示を望まない入所者には、個人を尊重する為にも要望に沿うよう対応を行っている。	トイレや入浴の介助では最も配慮が求められる。居室内のトイレはカーテンで仕切られているが、羞恥心への気遣いは怠らない。声掛けもさり気なく行い、確認や介助のタイミングを計っている。入居して間もない時期は同性によるケアが必要か否か、本人の気持ちや様子を見ながら判断している。また個人情報の取り扱いに関して職員の理解は一定程度あるが、更に、業務上のやり取りであっても声の大きさにまで注意を払うよう指導している。ホーム便りやリビングに掲示された写真、居室の名札表示まで入居時には承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の集い時「一日の中で何をやりたいか」を一人ひとりに尋ね、自己決定出来るよう働きかけている。又入所者にアンケートをとり、本人の思いや希望に沿ったケアを行っているかモニタリングを実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の集い時に入居者の要望を聞き、可能な限り要望に沿えるよう支援している。例えば「風呂に入りたい」と言われる入居者に対し、当日が入浴日でなくても入れるよう柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室を利用出来るよう支援している。普段着もご本人の好みに合わせ着用して頂き、身だしなみが自力では困難な方については、スタッフがさり気なく容姿を整える等の工夫をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の身体状況に合わせ、家事援助を個別に提供している。嗜好品、苦手な物をスタッフがきちんと把握した上で食事提供している。又、入所者の希望で献立を変更出来るような対応を行っている。コロナウイルス感染症前は年2回、外食レクリエーションを実施していたが、折り詰め弁当を注文している。	家庭と同じように台所から料理の匂いや音が聞こえている。献立は参考にしているものはあるが、冷蔵庫の中身や利用者のリクエストによることもあり自在である。好き嫌いやアレルギーの有無の把握も行っている。全介助者が一名、他には声掛け等で促す方もいるが、出来るだけ自分で口へ運んでもらうため介助は最小限に止めている。栄養価は計っていないが週一回の体重測定を目安とし、軽い器などの工夫もあって利用者に食欲はある。コロナ禍で外食レクリエーションも自粛中であり、いつもと違う楽しみを味わってほしいと弁当発注で目先を変えたところ利用者には好評であった。また誕生日は当日にケーキを用意し、みんなで祝っている。現在、職員も同席する食事風景は自粛しているが、少し離れた場所や時間差で摂りながら見守っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を記録に残し、一日の必要摂取量を把握している。お茶以外に牛乳やヤクルト、コーヒー等好みの飲み物を提供している。食形態も咀嚼レベルに合わせて、刻みや軟食で提供する等個別に対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの自立度を個別に把握し、必要に応じて介助している。起床時・毎食後と口腔ケアを行い夜間は義歯を洗浄している。			

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。個別の排泄チェック表を活用し、トイレで排泄が出来るよう支援している。又、排泄についての研修へ参加し、知識と技術の習得に努めている。	排泄に関して自立した方も若干名いるが、任せたままでなく、さり気ない見守りを行っている。入居後の支援のひとつに排泄記録があるが、誘導のタイミングが計れるようになり効果も表れている。オムツ・パット類の使用枚数減はその一例であり、自己負担の軽減に繋がっている。利用者は自室のトイレを使用しており、車椅子利用者であっても十分な広さで、手すりは自立を促す補助具としても役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝必ず牛乳を提供し、副食には食物繊維を多く含んだ食べ物を取り入れている。便秘がちの方には、主治医へ相談し緩下剤を検討したり、日頃から便秘体操を個別に実施し予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴希望があれば、曜日を問わず柔軟に対応出来るよう心がけている。入浴を好まない方については、無理強ひせずスタッフが交代したり、時間帯を変更して対応している。	入浴は週2回を目安とし、主に午前中のケアである。拒む方には無理強ひはせず、タイミングや日にちをずらしながら対応している。入浴しない日でも下着肌着の交換を行い清潔保持に努めている。またシャンプー類は個人用だが買物は事業所代行で揃えてくれる。ひとりずつゆっくりと寛ぐ中で想いを話してくれる利用者もある。脱衣場・浴室共に暖房設備は冬場のヒートショック対策となり、脱衣場の引き戸からトイレへ行ける設えも使い勝手がよい。シャワーチェア等も利用しながら安全な入浴を支援している。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態に合わせ昼寝をしていただいたり、休めない方に対し、フットマッサージを実施したり、一緒にテレビを見たり臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬する時はスタッフ2人以上で確認を行い、誤薬のないように努めている。内服薬の副作用と思われる症状が出現した場合は、主治医へ連絡し適切な指示を受けるよう体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵や塗り絵など行ってもらい、調理が得意な方には食事の材料切りを手伝って頂いている。毎月、カレンダー等の作成をしてもらっている。しりとりや間違い探しなども熱心に参加される。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃より買い物同行は、要望に合わせて随時実施している。通常であれば季節の花や紅葉見物も積極的に実施しているが令和2年より新型コロナウイルス感染症への感染予防の為、思うようにニーズへ応えられていない。自宅への外出や外泊も思うように実施できていない。	コロナ禍ではあるが、彼岸花や紫陽花、コスモスなど季節の花々を観に感染対策をしながら出掛けたこともある。目的地の人出をみて降車を決めるなど柔軟な判断である。天候や体調をみて敷地内の散歩を行うのは日常的な光景であり、日差しを浴びながら五感の刺激にもなっている。利用者同士が手をつなぎながら歩く姿もみられる。車椅子利用であっても他の利用者と同様に連れ出し、全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金出納帳を作成し、随時ご家族へ収支報告を行っている。個人の金銭能力に合わせて、買い物(パン購入時等)の際は事前にお金を本人へ手渡し、そのお金で買い物を頂く等の支援を行っている。令和2年より新型コロナウイルス感染症への感染予防の為、思うようにニーズへ応えられていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は日頃から使用出来るようにしており、ご本人の希望があれば、その都度連絡支援が出来るような体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはトイレが完備しており、個々のプライバシーに配慮している。玄関先には花を飾ったり季節感を味わって頂けるような居住環境を作っている。	各居室はリビングを囲むような配置で、部屋を出ると誰かがそこにいてくれる安心感もある。丸く太い柱はどっしりとした安定感を生み出し、利用者の動線上に行動を妨げる物もない。昼食後には昼寝タイムを取っているが、それ以外の殆どをリビングで過ごしている。みんなが楽しみにしているテレビ番組もあり、ソファで寛ぎながら視聴する様子は家庭と同じである。明るい日差しはレースカーテンで調節し、騒音もない静かな環境である。時節柄、時間を決めて換気を行い、手を触れる箇所のごまめな消毒は利用者も一緒に手伝っている。浴室・トイレ共にきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルとソファを設置し、一人ひとりが自由に過ごせるような空間を作っている。気の合う仲間同士で会話をする場合は、居室のスペースを使いお茶を飲みながらリラックスして過ごせるような配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的にスタッフと各入居者で、居室の整理整頓を行っている。ご家族の協力のもと、馴染みの家具や写真等を飾り、自宅で生活していた時同様居室の空間作りに配慮している。	火気等の危険物以外に持ち込む品物の制限はない。使い慣れた物をと伝えており、居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。各居室にはクローゼットがあるため、四季分の衣類等の保管や整理整頓にも役立ち、室内はきちんと片付いている。天気の良い日には寝具を干す手間も惜しまない。看取り期に家族が希望すれば居室での宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが必要な方については居室に設置し、入居者の状態に応じた工夫をしている。部屋が分かりにくい入所者には目印を作り、ご本人が混乱する事がないように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない